

吟剣詩苑

g i n k e n s h i b u

勤皇の志士たちは なぜ漢詩だけでなく 和歌も詠んだのか 幕末の志士と 和歌

表紙の詩

常盤孤を抱くの図に題す 梁川星巖

雪は笠檐に灑いで風は袂を捲く

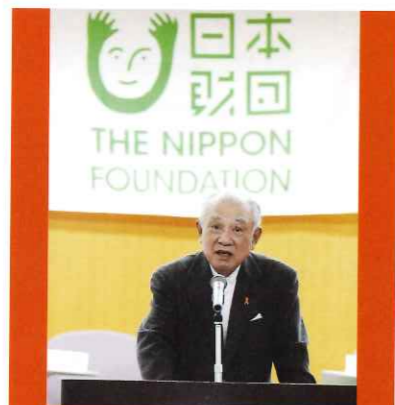
呱呱乳を覓むるは若為の情ぞ

他年鋏枂峰頭の嶮

三軍を叱咤するは是れ此の声



上:会議に先立って行われた記念撮影。日本財団 笹川陽平会長、日本吟剣詩舞振興会役員とともに、各地区連協から推薦された宗家・会長31人が一堂に会した
下:意見交換会は基本的に挙手により行われたが、できるだけ多くの人に意見を述べてもらうために後半は事務局から名指しで実施された



日本財団
笹川陽平会長
未来を担うこどもたちの
指導をお願いしたい

「日本の伝統文化を継承しようという笹川良一の姿を間近に見てまいりましたが、吟剣詩舞道の原理原則を守るとともに、激しい時代の変化の中で未来志向のものに変えていくことも必要です。また皆様方はこどもたちの指導も熱心に行われておりますが、現在日本のこども100人あたりで34人が貧困や虐待などの課題を抱えているという厳しい現実があります。礼と節を中心にして未来の日本を背負うこどもたちを育てていただいているという活動に感謝と敬意を表するとともに、今後さらなるご指導を切にお願いする次第です」



意見交換会では日本吟剣詩舞振興会の沼崎富会長、多田正稔副会長、徳田寿風副会長、池内賢二専務理事が壇上に座り、宗家・会長の質問や要望に答えた



参加者中最年少の三木勝風宗家(長崎)。「若い人はSNS等で吟剣詩舞と聞いても反応しないが、刀剣や日本刀と書くとガラッと変わり、動画再生で160万以上の反響があった」と、吟剣詩舞を知らない人にネットでどうすれば注目されるか、提言をした



意見交換会で口火を切った柳本豊州宗家(北海道)。「財団のコンクールでは個性が出づらいと離れる人も多い」と北海道の現状を訴えた。それに対して徳田副会長は「財団、レコード会社のコンクールそれぞれに楽しんでいただきたい」と意見を述べた

日本財団助成事業

日時:令和5年1月18日(水)
場所:東京・日本財団ビル大会議室

新型コロナウイルスによる移動制限等が解除されたことから、令和2年1月以来3年ぶりに開催された「宗家・会長会議」。第1回目は東京都港区三田の笹川記念会館で行われましたが、日本財団助成事業として行われた今回は、港区虎ノ門の日本財団ビルで開催。日本全国8地区の地区連絡協議会から推薦された31人の宗家・会長が参加、日本吟剣詩舞振興会の役員とともに、日本財団笹川陽平会長も臨席されました。まず開会の辞で壇上上がった日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長は、「第1回の折には公益財団の事業推進に対する改善改革等の内容説明をはじめ、事務局側からの発言が大半になってしまい、皆様方からのご意見要望の時間が少なくなりました。その反省に立ち、今回はより有意義な会議となるよう

努めてまいりますのでよろしくお願ひします」と挨拶。
続いて日本財団笹川陽平会長が昨今の日本のこどもたちの窮状を紹介したうえで、「普段からこどもたちに伝統芸能を継承するべく努力されている皆様方に、さらに未来を背負うこどもたちへのご指導をお願いしたい」と吟剣詩舞道の教育的側面について出席者の協力を依頼しました(左参照)。
続いて出席者と財団役員による「意見交換会」が開始。「若年層、新規会員の状況」「コロナ禍の影響について」「コンクールの審査基準について」など幅広い問題について、各地



「吟詠に比べて剣詩舞の審査はバラ付きが激しいのでは」という質問に答える多田正稔副会長。ふだんは聞きづらいことも遠慮なく質問が飛んだ

区を代表する形で10人以上の宗家・会長が意見を述べ、財団役員等もそれに応えるなど活発な意見交換が行われました。
3時間を超える熱のこもった議論の後、場所を移して懇親会も開催。さらなる意見交換とともに地域を超える交流が図られ、吟剣詩舞界の未来を図る有意義な会となりました。

3年ぶりに第2回宗家・会長会議開催 吟剣詩舞の未来のために 活発に意見交換

新型コロナ禍に見舞われる直前の令和2年1月20日、吟剣詩舞の将来ビジョンを共有することを目的に開催された「第1回宗家・会長会議」。その後は緊急事態宣言の発令などにより実施できずじまいでしたが、このほど全国から31人の各流派の宗家・会長が出席して、3年ぶりに第2回目が開催されました。日本財団の助成事業として実施された今回は、日本財団笹川陽平会長も臨席。意見交換では吟剣詩舞の普及・発展の方策を巡って活発な意見が交わされました。

新型コロナウイルスによる移動制限等が解除されたことから、令和2